第７号　栃木市　2016. 10. 1

教育委員会だより　絆

発行責任者：栃木市教育委員会
委員長 後藤 正人
住 所：栃 木 市 万 町 9-25
TEL：0282−21−2461
FAX：0282−21−2689



夏休み中、研修に励む先生の様子（講師は後藤教育委員長　栃木第三小にて）

委員長のあいさつ

教育の不易　『関わり～つながり～結びつく』

　教育の流れが大きく変わろうとしている今だからこそ、教育の不易に目を向けていく必要性を感じます。学校教育の大綱的基準である学習指導要領の改定の概要が公表されました。改訂のキーワードは“カリキュラムマネージメント”です。真意は、子どもたちの登校から、下校までの全教育活動を学校教育目標を基軸に相互に関わらせ、つなげていこうとする考え方です。子どもたちは学校で様々なことを学びながら「生き抜く力」を身に付けていきます。子どもの成長は途切れることなく日々連続しています。

　そこで、各学校では学校教育目標の実現のために「指導観・こども観・評価観」について共通認識をもって、子どもたちに関わる努力をしています。また、本市では、地域ぐるみで子どもの成長を見守ることに主眼を置いた「とちぎ未来アシストネット事業」を推進しています。市民への更なる広報活動など今後につながる貴重な課題をいただく一方、地域と学校とがより一層強い絆で結ばれ、地域が活性化してきた等々と多くの成果も現れ、確実に根付いてきています。

　学校と地域がつながる。先生同士がつながる。先生と子どもがつながる。家族がつながる。人は関わり、つながることによって、活力が沸き、自信と勇気がもてるようになり、やがて、その地に愛着を抱き、そこで暮らす人同士が強い絆で結ばれていきます。つながりの度合いは信頼関係の強さによって変わります。

　私たち教育委員は常に職責の重さを実感し、情報を共有しながら、全ての市民の方々との「つながり」を一層大切にしていこうと考えています。教育委員会だより『絆』も「関わり～つながり～結びつく」ための一つの方策として発行を続けております。

教育委員長　後藤 正人

栃木市教育ニュース

栃木市教育委員会では、‘ふるさとの風土で育む人づくり・まちづくり’をスローガンに掲げ、本市ならではの教育を推進しています。
『栃木市教育ニュース』では、その取組の中から旬な話題を選び、市民の皆様にお知らせします。

平成29年度から全ての市内公立小中学校にコミュニティ・スクールを導入します！

栃木市では、平成２８年度に市内小中学校４４校の過半数にあたる２３校において、コミュニティ・スクールの研究指定を行い、さらに平成２９年度より、市内全ての公立小中学校でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入します。すべての学校で導入することを決めたのは、県内では栃木市が初めてです。栃木市教育は、常に先進的な教育に取り組んでいます。

コミュニティ・スクール

「学校運営協議会」を設置している学校のことです。

コミュニティ・スクールってなに？と思われる方も多いと思いますが、栃木市では既に、とちぎ未来アシストネットの活用により、地域での学校支援活動が盛んに行われていますので、その進化型と思っていただければ分かりやすいと思います。

学校と家庭と地域が一体となって学校づくりを行うことにより、子どもたちと学校への支援がよりしやすくなり、子どもたちの学校生活の充実と学力向上につながると期待できます。

若林由美子　教育委員より

学校運営協議会で協議される主な内容

① 校長が作成する学校運営の基本方針の承認について
② 学校における教育活動への意見について
③ 学校と家庭・地域が連携協働して行う活動について

学校運営協議会って？

保護者や地域住民の代表の皆さんが一定の権限と責任を持って、学校運営に参画する合議制の機関のことです。



学校運営協議会の様子

学校と家庭・地域がより一体となった学校づくり



栃木市立小中学校適正配置基本方針の説明会を開催しました！

平成28 年2 月に策定されました『栃木市立小中学校適正配置基本方針』についての説明会を、保護者や地域の皆様を対象に、4 月より市内各地において開催しました。

この基本方針は、栃木市の子どもたちのためのよりよい教育環境の整備と教育の質の充実を目指した学校適正配置を推進するための考えをまとめたものです。

少子化による児童・生徒数の減少。本市でも避けられない課題です。集団活動で得られる思いやりや助け合いの心、負けたくないという競争心、仲間と一致団結してやり遂げる達成感、そして生涯付き合える仲間づくりなど、子どもの成長過程で身に付けてほしいことはたくさんあります。それには適正な人数の規模が必要となってきます。市民の皆様にも今回の方針のもと、明日の栃木市を担う子どもたちが健全に育つようご理解をいただきたいと思います。

荒川律　教育委員より



説明会の様子

教育委員の活動日誌

教育委員の活動は、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な教育委員会の取り組みに対する点検評価や学校訪問など多岐にわたっています。
『教育委員の活動日誌』では、その一部を紹介します！

定例教育委員会

毎月行われる「定例教育委員会」では、栃木市で行われる様々な教育事業について協議し、承認等を行います。
毎回出される多くの案件に対して、委員の一人一人が栃木市の未来を創る‘教育’のために熱心な意見交換をしています。



教育委員を何年もやっていると、あたかも自分が偉くなったような変な勘違いをしてくる。むろんそんなことは全くなくて、自分の馬鹿さ加減に反省しきりだ。一市民として、子どもたちの目線で、当事者の立場になって…。かつて大平町で教育委員になった頃の初心を常にもって、定例教育委員会に臨みたいと思っている。

福島鉄典　教育委員より

点検評価委員会

6月3日、6月13日、7月4日の3回にわったて点検評価委員会を開催し、学識経験者など外部の方から、栃木市の教育事業について意見を聴取しました。
7 月25日には、そのご意見をもとに教育委員会で総合的な評価を行いました。

栃木市教育行政の４つの基本施策である【学校教育の充実】【生涯学習の充実】【スポーツの推進】【文化の振興】をさらに10 単位に細分化した主な施策について、外部の5 名の評価委員の方々からご意見をいただき、教育委員が客観的な目で評価させていただきました。
毎年度の取組みを振り返ることにより、次年度の教育行政に活かせることと思います。

西脇はるみ　教育委員より



学校訪問

市内の小中学校を訪問して、子どもたちの学習の様子などを参観します。
子どもたちや先生方と直接話しをしながら現況を把握して、よりよい栃木市の教育につながるように努めています。子供たちとふれ合えるこの機会を、教育委員はとても楽しみにしています。



たっち。たあっち。‥右手と右手を合わせるハイタッチ。子どもたちの汗っぽい手が、左や右から、人数分の手が。そして手の向こうには、好奇心いっぱいの笑顔。そのまま体をあずけるようにして。給食で教室にすわった訪問者は、なかなか珍しいらしく。「わかった、わかったよ。また来るから。さあ、担任の先生の方を向いて。昼休みに外で遊ぶ時間がなくなるよ。」校庭が太陽に照らされるように、君たちは愛されている。「また来るからね。じゃあね。」
学校を訪れるたびにこんな優しい気持ちになります。私たち教育委員は、子どもの笑顔がずっと守られるように意識して仕事をしております。

林慶仁　教育委員より

平成28年度 栃木市教育委員の紹介



後藤 正人　委員長



荒川 律　委員
（委員長職務代理者）



福島 鉄典　委員



若林 由美子　委員



西脇 はるみ　委員（新任）



林 慶仁　委員



赤堀 明弘　教育長

―新任委員のあいさつ―

みなさんこんにちは。このたび教育委員に任命されました西脇はるみと申します。

現在の学校教育制度についての知識を新たに習得しながら、教育委員の名に恥じぬよう、微力ながらお手伝いできればと思っております。どうぞよろしくお願いします。

西脇 はるみ　教育委員

教育長のひとこと

今年度、栃木市教育委員会では組織の充実を図り、これまでの1 部体制から「教育部」と「生涯学習部」の2 部体制になりました。これにより、施策・事業的にも‘ふるさとの風土で育む’教育はまた‘一歩’新たな歩みを始めています。

そもそも教育は、生きる力の育成を始め、子どもたちの未来から託され、その子の未来を育む営みであり、その時代や世相を反映しながらも、常に‘未来’を志向した取り組みが求められるものです。

新事業一つ一つ、例えば、小中一貫教育やコミュニティ・スクール、また、いじめ防止子どもフォーラムや防災教育にしても、それぞれが‘近未来から託されている’という思いを強く感じています。

これから、「教育部＋生涯学習部」でしっかり連携して、‘栃木市の教育’を着実に進めていきたいと思います。

【編集後記】

“教育委員会だより 絆 ”は本号より、「わかりやすさ」「親しみやすさ」を目指して、内容を一部変更しました。市民の皆様に、教育への関心を一層高めていただくため、‘開かれた教育委員会’としての活動をこれからも進めていきます。

※ご意見・ご感想はこちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課　〒328-8686 栃木市万町９－２５
電話：0282-21-2461　FAX：0282-21-2689　Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp